



平成26年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年4月25日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社篠崎屋

コード番号 2926 URL <http://www.shinozakiya.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 樽見 茂

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理グループ長兼経営企画部長兼IR室長 (氏名) 矢立 実

TEL 048-970-4949

四半期報告書提出予定日 平成26年5月2日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年9月期第2四半期の業績(平成25年10月1日～平成26年3月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年9月期第2四半期	2,557	10.2	147	111.7	146	107.5	127	145.2
25年9月期第2四半期	2,321	△6.2	69	△22.3	70	△23.6	51	△28.4

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年9月期第2四半期	8.83	—
25年9月期第2四半期	3.60	—

当社は、平成26年4月1日付で普通株式1株を100株に分割し、1単元の株式の数を100株とする単元株制度を採用しております。そのため前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年9月期第2四半期	1,896	1,316	69.4	91.17
25年9月期	1,709	1,224	71.6	84.84

(参考)自己資本 26年9月期第2四半期 1,316百万円 25年9月期 1,224百万円

当社は、平成26年4月1日付で普通株式1株を100株に分割し、1単元の株式の数を100株とする単元株制度を採用しております。そのため前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産を算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年9月期	—	0.00	—	250.00	250.00
26年9月期	—	0.00	—	—	—
26年9月期(予想)	—	—	—	—	—

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注)1. 当社は、平成26年4月1日付で普通株式1株を100株に分割し、1単元の株式の数を100株とする単元株制度を採用しております。なお、平成25年9月期については、当該株式分割前の実績を記載しております。

(注)2. 平成26年9月期の配当予想額につきましては、業績予想の開示を行っていないことから、現時点において未定とさせていただきます。配当については業績予想の見通しを開示した際にお知らせいたします。

3. 平成26年9月期の業績予想(平成25年10月1日～平成26年9月30日)

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による業績への影響が大きく、予測が困難なため現時点での予想の開示は行っておりません。なお、情報開示につきましては既存店等の情報を月次で開示するとともに、通期の見通しにつきましては第4四半期中を目処に、分かり次第、速やかに適時開示をまいります。

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年9月期2Q	14,436,600 株	25年9月期	14,436,600 株
② 期末自己株式数	26年9月期2Q	— 株	25年9月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年9月期2Q	14,436,600 株	25年9月期2Q	14,436,600 株

当社は、平成26年4月1日付で普通株式1株を100株に分割し、1単元の株式の数を100株とする単元株制度を採用しております。そのため前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して期末発行済株式数(自己株式を含む)、期中平均株式数(四半期累計)を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績見通し等の前提となる仮定及び業績見通し等のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料3ページ「(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」を参照してください。
- ・決算説明資料につきましては、平成26年5月1日に当社ホームページに掲載する予定です。

添付資料の目次

1 . 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2 . サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3 . 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間の売上高は2,557,178千円(前年同四半期比10.2%増)、営業利益は147,909千円(前年同四半期比111.7%増)、経常利益は146,474千円(前年同四半期比107.5%増)、四半期純利益は127,509千円(前年同四半期比145.2%増)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(小売事業)

小売事業である直営店舗においては、前事業年度より検証している「素材屋から惣菜屋へ」をテーマとしたカテゴリーを明確にした売り場づくりを全店へと推進し、高い鮮度感が求められるカテゴリーであるパック惣菜、米飯、和菓子系の強化を引き続き図りました。商品開発につきましても、高い鮮度感が求められるカテゴリーのアイテム強化を図り、「特製恵方巻き」、「しらすと野沢菜ご飯の太巻き」、「かのご饅頭」、「スーパージャンボ根菜入り餃子」等の新商品を企画・開発・販売し、顧客のニーズに対応しました。これらによって、全店で高い鮮度感のある売り場づくりが推し進められたことにより、1店舗平均の顧客数は、前年同四半期比110.6%となり、顧客の来店頻度向上へと繋がりました。さらに、パック惣菜、米飯、和菓子などの惣菜系の販売構成比が、豆腐、揚げ物類などの素材系の販売構成比を上回り、「大豆加工食品の専門店」へとブラッシュアップが図れたことにより、1店舗平均の顧客単価は、前年同四半期比104.1%となり、結果、1店舗平均の売上高は前年同四半期比115.2%となりました。

以上の結果、小売事業の売上高は2,270,892千円(前年同四半期比12.6%増)、セグメント利益(営業利益)は201,495千円(前年同四半期比63.3%増)となりました。

(その他事業)

その他事業は、小売加盟店及び業務用得意先への卸売事業並びに通販事業であります。

その他事業の売上高は286,286千円(前年同四半期比6.0%減)、セグメント利益(営業利益)は33,800千円(前年同四半期比12.9%減)となりました。

なお、当第2四半期累計期間の出店状況は、次のとおりであります。

(単位：店)

		前事業年度末 店舗数	増加	減少	当第2四半期末 店舗数
小売事業	「三代目茂蔵」(直営店)	63	-	1	62
その他事業	「三代目茂蔵」(加盟店)	99	4	11	92
合計		162	4	12	154

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末における資産の残高は、前事業年度末と比較して186,186千円増加し1,896,184千円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加184,304千円、売掛金の増加19,581千円並びに敷金及び保証金の増加16,500千円等によるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末と比較して94,768千円増加し580,024千円となりました。主な要因は、買掛金の増加104,133千円、未払金の増加17,412千円及びリース債務の減少19,085千円等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末と比較して91,417千円増加し1,316,160千円となりました。これは四半期純利益127,509千円の計上と配当金36,091千円の支払により利益剰余金が91,417千円増加したことによるものであります。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度と比較して184,304千円増加し506,981千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、241,799千円(前年同四半期は216,594千円の収入)となりました。これは主に、増加要因として税引前四半期純利益149,452千円、減価償却費及びその他の償却費20,750千円及び仕入債務の増加額104,133千円、減少要因として売上債権の増加額20,403千円及びたな卸資産の増加額10,442千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、3,136千円(前年同四半期は18,482千円の収入)となりました。これは主に、敷金及び保証金の差入による支出16,500千円、リース債権の回収による収入7,859千円及び割賦債権の回収による収入8,256千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、54,360千円(前年同四半期は29,180千円の支出)となりました。これはリース債務の返済による支出19,085千円及び配当金の支払額35,275千円によるものであります。

(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因の予測が困難なため現時点での予想の開示は行っておりません。なお、情報開示につきましては既存店等の情報を月次で開示するとともに、通期につきましては第4四半期中を目処に、分かり次第、速やかに適時開示をまいります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年9月30日)	当第2四半期会計期間 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	322,676	506,981
売掛金	119,470	139,051
商品	32,836	42,730
貯蔵品	1,299	1,847
その他	72,719	61,505
貸倒引当金	340	80
流動資産合計	548,662	752,037
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	164,534	154,271
構築物(純額)	15,415	14,308
機械及び装置(純額)	543	486
工具、器具及び備品(純額)	23,732	18,772
土地	633,548	633,548
その他(純額)	990	792
有形固定資産合計	838,764	822,178
無形固定資産		
投資その他の資産	3,058	2,488
投資その他の資産		
敷金及び保証金	194,618	211,118
その他	125,256	108,643
貸倒引当金	361	281
投資その他の資産合計	319,513	319,480
固定資産合計	1,161,335	1,144,147
資産合計	1,709,998	1,896,184

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年9月30日)	当第2四半期会計期間 (平成26年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	290,346	394,479
リース債務	19,085	-
未払金	58,779	76,191
未払費用	46,441	49,015
未払法人税等	29,718	25,021
債務保証損失引当金	26,550	23,550
その他	6,869	4,400
流動負債合計	477,790	572,659
固定負債	7,465	7,365
負債合計	485,255	580,024
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,000	1,000,000
資本剰余金	120,340	120,340
利益剰余金	104,402	195,820
株主資本合計	1,224,742	1,316,160
純資産合計	1,224,742	1,316,160
負債純資産合計	1,709,998	1,896,184

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)
売上高	2,321,328	2,557,178
売上原価	1,461,352	1,626,281
売上総利益	859,975	930,897
販売費及び一般管理費	790,105	782,987
営業利益	69,869	147,909
営業外収益		
受取利息	1,828	569
受取保険金	1,308	-
その他	835	847
営業外収益合計	3,971	1,416
営業外費用		
租税公課	2,329	2,296
その他	915	554
営業外費用合計	3,245	2,851
経常利益	70,596	146,474
特別利益		
固定資産売却益	-	52
債務保証損失引当金戻入額	2,500	3,000
特別利益合計	2,500	3,052
特別損失		
固定資産売却損	363	-
固定資産除却損	3,078	-
店舗閉鎖損失	2,082	75
特別損失合計	5,524	75
税引前四半期純利益	67,571	149,452
法人税、住民税及び事業税	15,579	21,942
法人税等合計	15,579	21,942
四半期純利益	51,991	127,509

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	67,571	149,452
減価償却費及びその他の償却費	30,271	20,750
貸倒引当金の増減額(は減少)	260	340
受取利息及び受取配当金	1,828	569
為替差損益(は益)	7	2
固定資産売却損益(は益)	363	52
固定資産除却損	3,078	-
店舗閉鎖損失	2,082	75
債務保証損失引当金の増減額(は減少)	2,500	3,000
売上債権の増減額(は増加)	11,656	20,403
たな卸資産の増減額(は増加)	14,176	10,442
仕入債務の増減額(は減少)	186,757	104,133
未払金の増減額(は減少)	10,438	10,090
未払消費税等の増減額(は減少)	11,102	15,139
その他	457	7,551
小計	237,697	272,383
利息及び配当金の受取額	1,840	569
法人税等の支払額	22,943	31,153
営業活動によるキャッシュ・フロー	216,594	241,799
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	6,222	1,902
有形固定資産の売却による収入	-	100
敷金及び保証金の差入による支出	2,202	16,500
敷金及び保証金の回収による収入	10,030	-
リース債権の回収による収入	10,529	7,859
割賦債権の回収による収入	6,600	8,256
その他	252	950
投資活動によるキャッシュ・フロー	18,482	3,136
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	-	35,275
リース債務の返済による支出	29,180	19,085
財務活動によるキャッシュ・フロー	29,180	54,360
現金及び現金同等物に係る換算差額	7	2
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	205,902	184,304
現金及び現金同等物の期首残高	327,408	322,676
現金及び現金同等物の四半期末残高	533,310	506,981

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第2四半期累計期間(自平成24年10月1日至平成25年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,016,625	304,702	2,321,328	-	2,321,328
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	2,016,625	304,702	2,321,328	-	2,321,328
セグメント利益	123,368	38,786	162,154	92,284	69,869

(注) 1. セグメント損益の調整額 92,284千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自平成25年10月1日至平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,270,892	286,286	2,557,178	-	2,557,178
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	2,270,892	286,286	2,557,178	-	2,557,178
セグメント利益	201,495	33,800	235,296	87,386	147,909

(注) 1. セグメント損益の調整額 87,386千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。